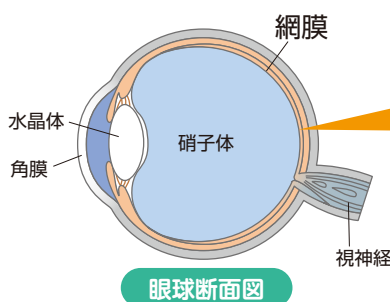


特集 知っておきたい糖尿病網膜症。

日本における糖尿病患者数は、生活習慣や社会環境の変化に伴って年々増加しています。糖尿病は、放置すると様々な合併症を引き起こします。その中の糖尿病網膜症は、成人の失明原因の上位を占めており、近年大きな問題になっています。

糖尿病と目の関係

糖尿病は血液中のブドウ糖の量が増え、血管が傷ついたり詰まったりする病気です。放っておくと合併症を起こしやすくなり、目にも障害が出てきます。



正常な眼底(網膜)のようす
目の奥にはたくさんの毛細血管があります

血管が傷つくと...

出血やむくみを起こすことがあります。また、血管が詰まって酸素欠乏になる部分が発生すると、新生血管という血管が生じます。新生血管は破れやすく硝子体出血を起こしたり、周りに膜ができて網膜剥離の原因となったりします。



まずは眼底検査を受けましょう

眼底検査とは、目薬をさして開いた瞳孔から網膜の血管の様子を観察する検査です。

目薬をさすだけで痛くない!



約30分後瞳孔が開く。



異常なしの場合...

血糖コントロール + 年に1回程度の眼底検査

適切な食事や運動を行い、必要に応じて内科医師の指示に従いましょう。

小さな異常が見つかったら...

血糖コントロール + 3ヶ月~半年に1回程度の眼底検査

初期段階での小さな出血は、血糖コントロールにより自然に治まることもあります。

出血やむくみが見つかったら...

硝子体内注射、網膜光凝固術、硝子体手術などが必要となることがあります。

硝子体内注射

目の中に注射して、むくみをとります。

網膜光凝固術

新生血管の発生予防や、すでに出た新生血管を鎮静化させます。

硝子体手術

新生血管から出た血液を取り除き、出血の原因となる場所を電気で凝固。網膜剥離も生じている場合は、はがれた網膜を元に戻します。手術中に光凝固を十分に追加します。

糖尿病と診断されたら、眼科でも早期の検査と適切な治療を受けることを心掛けましょう。自覚症状がなくても定期的な眼底検査を受け、十分な血糖コントロールを行うことが大切です。

出田眼科病院 副院長 川崎 勉

